

平和祈念事業アドバイザーボード（第2回）議事要旨

1 日 時：平成22年5月13日（木）13：00～17：00

2 場 所：三番町共用会議所第3会議室

3 出席者：（構成員）

- ◎ 亀井 昭宏（早稲田大学商学学術院教授）
- 杉浦 力（財団法人能率増進研究開発センター理事長）
- 田久保忠衛（杏林大学名誉教授）
- 水嶋 英治（常磐大学大学院教授）
- 横堀 裕之（公認会計士）

（敬称略、五十音順。◎は座長、○は座長代理）

（総務省）

北原 久 特別基金事業推進室長

佐藤 紀明 特別基金事業推進室企画官

4 議事次第

- （1）企画競争提案の審査について
- （2）プレゼンテーション等の実施について
- （3）今後のスケジュールについて

5 議事要旨

（1）企画競争提案の審査について

平成22年度平和祈念事業の企画提案にかかる審査方法及びプレゼンテーション等の実施方法について、資料2に基づき、事務局より説明が行われた。

（2）プレゼンテーション等の実施について

企画提案書について、応募者より説明後、質疑応答が行われた。

主な発言等は以下のとおり。

- 動員目標について、成果としては全体的な数字も重要だが、設定目標を達成したか否かは、その活動の効果・効率性を評価する非常に重要な基準となる。
- 資料のデジタル化などメディア活用のほか、これまでに寄贈された貴重な実物資料を見て、触って頂くような形で展示をすることも非常に重要。

- 資料収集は非常に重要。高齢化等により、残されていたものが紛失してしまう可能性がある中で、どのような形で収集するかという努力が大事。
- 施設運用においては、相当の運営のリスクマネジメントが必要。
- イベント等で有名人を起用するのは良いが、シベリア抑留問題は戦争の中でも特殊なパートであり、慎重な人選が必要。
- 若い人の意識が非常に希薄になっているが、このような人達は常設館に来ない方が多ので、このための広報が重要。
- 平和祈念展示資料館の入館者は、4万人程度だが、国民は1億3千万人いるので、地方におけるアウトリーチ業務を行うほうが、国民全般の意識は深まる。東京に来られない人達のことも十分考える必要がある。

(3) 今後のスケジュールについて

審査表の提出及び次回の開催等について、事務局より説明が行われた。

以上

〔 本議事要旨は、総務省大臣官房総務課特別基金事業推進室において作成した速報版であり、今後、修正する場合がある。 〕